

## 第1章 手取川流域の概要

### 第1節 流域の概要

手取川は、その源を白山（標高 2,702m）に発し、尾添川、大日川等の支川を合流しながら白山市鶴来大国町付近に至り、これより山間部を離れ石川県の誇る穀倉地帯である加賀平野を西流し、白山市湊町付近にて日本海に注ぐ、幹川流路延長 72 km、流域面積 809 km<sup>2</sup>の一級河川であり、白山市鶴来大国町地先から海に至るまでの区間と、手取川ダム区間が大巨管理区間となっている。

手取川流域は、石川県の第2位・3位の人口を誇る白山市、小松市を含む3市2町（白山市、小松市、能美市、川北町、野々市町）にまたがっており、豊かな水量の手取川の水は、古くから水力発電、農業用水、生活用水等に利用され、地域の住民に大きな恩恵をもたらしてきた。

また、上流域には治水、利水を目的とした手取川ダムが完成（昭和 55 年）しており、下流域の治水安全度の向上だけではなく、発電、上水道水の供給など広範囲にわたり大きな恩恵をもたらしている。

しかし、その反面、度重なる洪水氾濫により多くの人命、財産を失った歴史もあり、手取川という大自然との共存が地域住民の重要な課題であったことから、住民の日常生活と手取川は密接な関わりをもち、独自の風土が育まれてきた。

現在、手取川扇状地は石川県を代表する穀倉地帯であるとともに、豊富な地下水を活用した先端産業等の企業立地が進んでいる他、一般国道 8 号、北陸自動車道、JR 北陸本線等の重要な交通幹線や、石川県の人口の約 8 割に給水する上水道をはじめとするライフラインが横断するなど、経済、社会面での重要な基盤をなしている。また、上流域も含め、豊かな自然や史跡、名勝等も多いことから、文化面でも重要な役割を果たしている。



図 1 手取川流域概要図

【自然環境】

手取川流域は、上、中流域の山地部と下流域の平野部に大別される。

気候は日本海型気候に属しており、過去 30 年の年平均降水量は山地部で約 2,900mm、平野部で約 2,300mm と多雨であり、また、日本有数の豪雪地帯でもある。

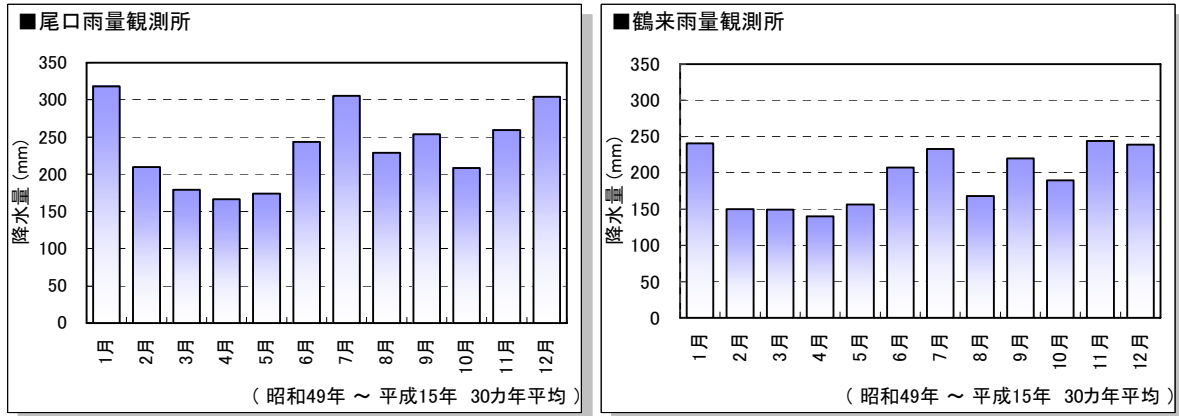


図 2 尾口観測所(山地部)と鶴来観測所(平野部)の雨量観測データ

上流の山岳地域は、白山国立公園に指定されており、全国有数の良好なブナ自然林が分布し、クロユリ等の高山植物の宝庫ともなっている。また、ニホンカモシカ (国指定特別天然記念物)、ニホンザル、イヌワシ (国指定天然記念物)、ヤマメ、イワナ等の多種多様な動物が生息している。

地質は、日本最古の先シルル紀から原生代の飛騨変成岩類に属する片麻岩と晶質石灰岩類や中生代白亜紀の恐竜を始めとする爬虫類、原始的哺乳類、裸子植物、羊歯植物等を含む手取層群、そして、風化や侵食を受けやすい白山火山の噴出物等の変化に富んだ地質であり、地すべり地や崩壊地が多数存在している。



図 3 ブナ林



図 4 上流部 (源流白山) の状況

白山市瀬戸の尾添川との合流点から、白山市鶴来大国町付近までの中流域には、河岸段丘の下に河床を浸食してできた高さ約 30m の断崖の溪谷（手取峡谷）が続いており、美しい景観を形成している。



図 5 中流部（河岸段丘）の状況

溪谷をぬけた下流域では、白山市鶴来大国町付近を扇頂部として日本海に向かって扇状地が形成されている。

自然環境では、アユやサケが遡上する他、ウグイ、アブラハヤ、カマキリ（アユカケ）等の他、支川の湧水箇所にはトミヨ（県指定希少野生動植物種）が生息している。河川敷には、カワヤナギやアキグミ等の木本群落が繁茂し、水際にはツルヨシやヨシオギ群落等が見られる。また、手取川河口部には、石川県内で最大のコアジサシ（※ 絶滅危惧Ⅱ類）の繁殖地がある。



図 6 下流部（扇状地）の状況



図 7 トミヨ



図 8 コアジサシ集団繁殖地



図 9 コアジサシ

※ 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」 2002年：環境省

## 【観光・景勝地】

観光、景勝地は、上流域では白山国立公園内を通過している白山スーパー林道から眺望できる白山、ふくべの大滝等を含め、四季折々に豊かな自然がある。また白山麓周辺にはバーベキュー、キャンプができる各種施設、温泉があり、冬季には白峰スキー場、一里野スキー場等白山麓にある7つのスキー場でウィンタースポーツを楽しむこともできる。

その他、昭和9年に起きた手取川大洪水で流れ出た「百万貫の岩」(石川県指定天然記念物)と呼ばれる体積1,890m<sup>3</sup>、重量4,839トンの巨大な岩がある。

中流域には獅子吼高原や、景観が美しい手取峡谷や綿ヶ滝、白山神社の総本社である白山比咩神社がある。

下流域には、急流河川“手取川”にあつて数少ない静穏な淵である「安久濤ヶ淵」(白山市指定記念物)がある。



図 10 百万貫の岩



図 11 手取峡谷の綿ヶ滝

出典：旧鳥越村ホームページ



図 12 白山比咩神社

出典：旧鶴来町パンフレット

## 【文化財・史跡・天然記念物】

主な文化財、史跡、天然記念物については、上流域では支川<sup>なかのがわ</sup>中ノ川の温泉の噴出によってできた『岩間の噴泉塔群』(国指定特別天然記念物)や、本川の恐竜や植物の化石が多く産出されることで知られる『桑島の化石壁』(国指定天然記念物)、土木遺産に認定された甚之助砂防堰堤群等がある。

下流域では、扇頂部に明治時代に築造された旧宮竹用水取水口や旧七ヶ用水大水門があり、また、熊田川と西川の合流点付近には、藩政時代に盛んだった北前船<sup>きたまえぶね</sup>の船主が開設した私立図書館『呉竹文庫』(白山市指定保存建造物)がある。



図 13 岩間の噴泉塔群

出典：旧尾口村パンフレット



図 14 桑島の化石壁

出典：桑島の里パンフレット



図 15 土木遺産に認定された甚之助砂防堰堤群



図 16 七ヶ用水大水門と安久瀧ヶ淵



図17 呉竹文庫

### 【特徴的な河川景観】

特徴的な河川景観としては、中流域の河岸段丘の下に河床を浸食してできた高さ約 30m の断崖の溪谷（手取川溪谷）が続き、美しい景観を形成している他、下流域では扇状地から眺める“白山”や、“石の河原”を流れる手取川の流れといった自然的景観と、霞堤や水制などの治水施設や扇状地を潤すための取水施設、風物詩となっているサケを捕獲するための“やな”等の人の営みのために設置された施設とが調和した、“手取川独特の風景”を形成している。



図 18 手取溪谷  
出典：いしかわの自然百景



図 19 桜づつみから眺めた白山（川北町）

### 【自然公園等の指定状況】

手取川は、上流部が白山国立公園、中流部が獅子吼・手取県立自然公園、また支川尾添川上流部が白山自然公園、白山一里野県立自然公園に指定されている。白山国立公園は石川県のほか富山、岐阜、福井の3県にまたがっており、山頂付近は地形、植物、動物の保護のため、特別保護区に指定されている。

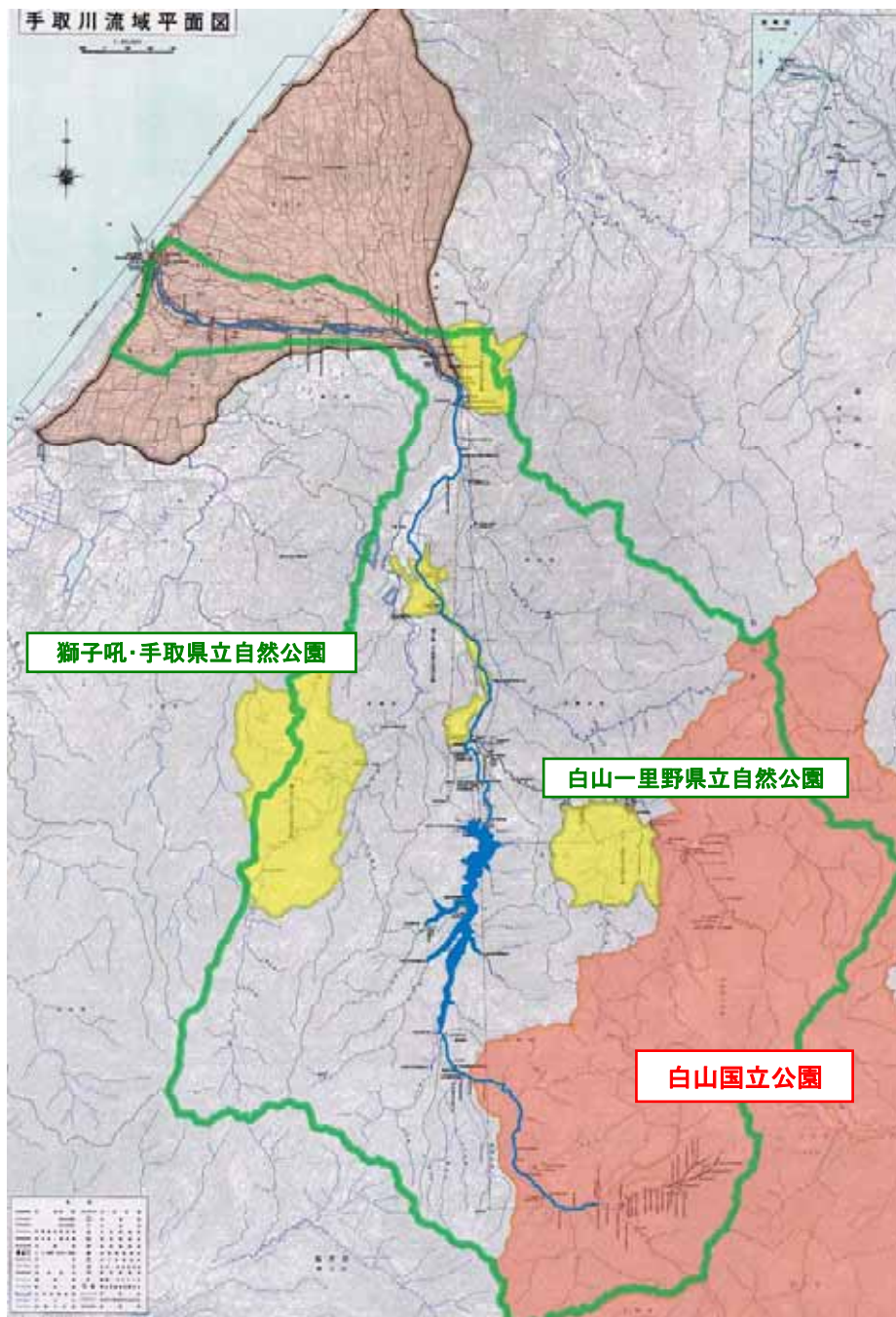


図 20 手取川流域の自然公園

出典：石川県の自然公園・自然環境保全地域等配置図

### 【手取川流域の土地利用】

手取川流域は、流域面積からみると山地面積の割合が約9割を占めており、平地と河川区域の面積はごくわずかである。

また、土地利用状況では宅地の占める割合が増加傾向にあり、逆に山林及び農地面積の占める割合は減少してきている。

【流域内地形】

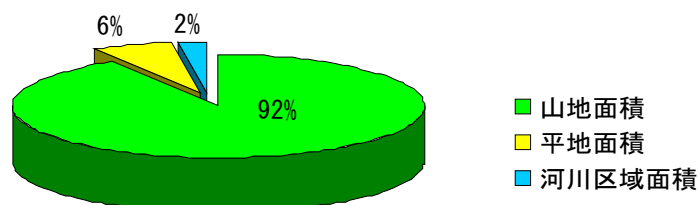
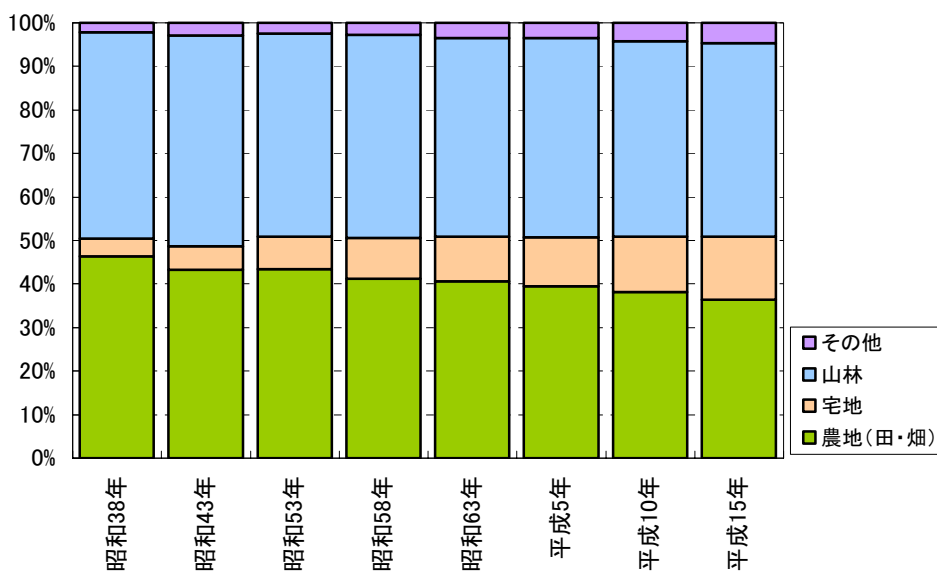


図 21 流域内地形（調査基準年 平成7年度末）

出典：河川現況調査 国土交通省北陸地方整備局 H13.10

【手取川流域の土地利用変化】



注) 流域内として、小松市、白山市、能美市の3市と、川北町、野々市町の2町を対象とした。

図 22 流域内土地利用状況の推移

出典：石川県統計書



## 【人口】

手取川流域の関係市町村における総人口は約32万人（平成17年国勢調査により集計）である。

手取川流域における過去40年間の人口及び世帯数の推移は図23のとおりであり、人口は過去40年間で約1.6倍に増加している。それに対し世帯数は、約2.4倍の増加であり、核家族化が進んでいることがうかがえる。なお、これらの増加のほとんどは、市域の一部が流域に含まれる旧松任市、小松市、野々市町による増加である。

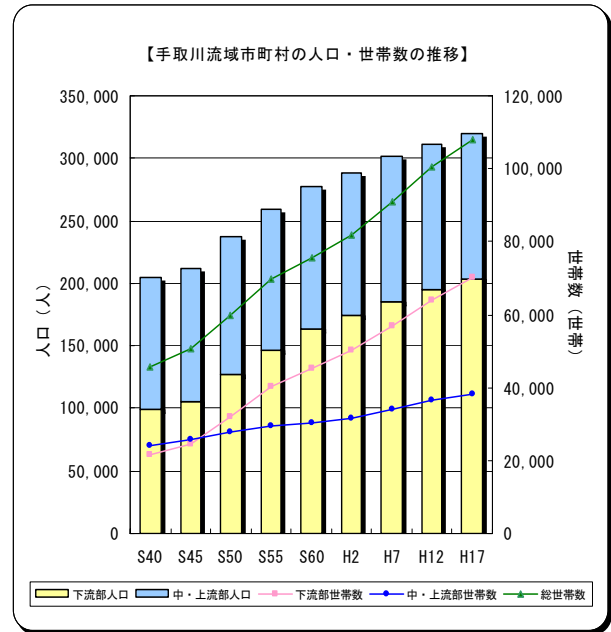


図 23 人口・世帯数の推移

出典：国勢調査報告 ※

表 1 人口・世帯数の推移

### ■手取川流域市町村の人口の推移

区分	市町村	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17
下流部	松任市	29,649	31,099	36,170	43,766	52,585	58,142	62,990	65,370	67,488
	根上町	11,418	12,745	13,665	14,141	14,423	14,268	14,562	15,426	16,102
	寺井町	10,877	11,678	12,483	13,103	13,678	14,163	14,358	15,308	15,996
	辰口町	8,758	8,510	9,160	10,009	10,960	11,503	13,113	14,343	15,104
	川北町	4,363	4,267	4,267	4,256	4,271	4,554	4,514	4,922	5,676
	美川町	11,617	11,619	12,055	12,217	12,321	12,012	11,803	12,454	12,968
	鶴来町	12,229	12,280	15,252	17,159	19,271	20,266	20,860	21,477	21,883
野々市町	10,981	13,598	23,752	31,817	36,080	39,769	42,945	45,581	47,973	
中・上流部	河内村	1,406	1,173	1,229	989	987	1,088	1,171	1,205	1,133
	吉野谷村	2,434	1,881	1,866	1,513	1,534	1,488	1,501	1,400	1,284
	小松市	91,163	95,684	100,273	104,329	106,041	106,075	107,965	108,622	109,074
	小鳥越村	5,244	4,353	3,904	3,566	3,421	3,378	3,256	3,154	3,002
	尾口村	1,524	1,179	1,513	846	921	861	750	731	610
	尾峰村	2,642	2,141	1,470	1,230	1,291	1,264	1,249	1,186	1,080
合 計	204,305	212,207	237,059	258,941	277,784	288,831	301,037	311,179	319,373	

### ■手取川流域市町村の世帯数の推移

区分	市町村	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17
下流部	松任市	6,268	7,028	8,754	11,148	13,473	15,416	17,757	19,926	21,748
	根上町	2,497	3,032	3,344	3,586	3,607	3,687	3,944	4,487	4,984
	寺井町	2,377	2,643	2,948	3,259	3,457	3,692	3,909	4,461	4,952
	辰口町	1,893	1,920	2,167	2,539	2,854	3,002	3,874	4,434	4,901
	川北町	880	911	917	945	945	1,010	1,066	1,241	1,549
	美川町	2,689	2,858	3,042	3,210	3,301	3,263	3,342	3,737	4,152
	鶴来町	2,754	2,883	3,789	4,295	4,907	5,346	5,726	6,282	6,786
野々市町	2,311	3,385	6,957	11,188	12,680	14,835	17,422	19,217	20,980	
中・上流部	河内村	306	285	273	249	251	267	303	338	343
	吉野谷村	470	435	441	401	416	409	439	433	411
	小松市	21,199	23,284	25,471	27,416	28,144	29,224	31,778	34,306	35,889
	小鳥越村	1,060	976	928	886	858	848	820	831	830
	尾口村	351	313	316	239	253	258	246	252	227
	尾峰村	603	565	452	444	437	422	393	405	372
合 計	45,658	50,518	59,799	69,805	75,583	81,679	91,019	100,350	108,124	

注) 世帯数は、昭和55年までは普通世帯と準世帯の合計、昭和60年以降は一般世帯と施設等の世帯の合計である。

出典：国勢調査報告 ※

※ 1 平成17年データは、国勢調査の速報値である。

2 上表の平成17年人口及び世帯数については、合併前の市町村毎に集計している。

## 【産業】

手取川流域には、全国的にも有名な九谷焼をはじめ、酒造業、仏壇製造業等の伝統産業がある。また、稲作は手取川扇状地のほぼ全域において行われており、加賀の早場米として全国的に知られているが、年々第1次産業は減少している。

上、中流域での産業別事業所数をみると、昭和56年～平成13年にかけては全体としては大きく変化していないが、第3次産業のうちサービス業が増加している。また、下流域の産業別事業所数では、昭和35年以降、第2次産業、第3次産業が大きく増加している。この第2次産業の増加は、手取川扇状地の地下水を利用した電子産業、繊維産業、ビール工場等の企業立地により大きく増加した。

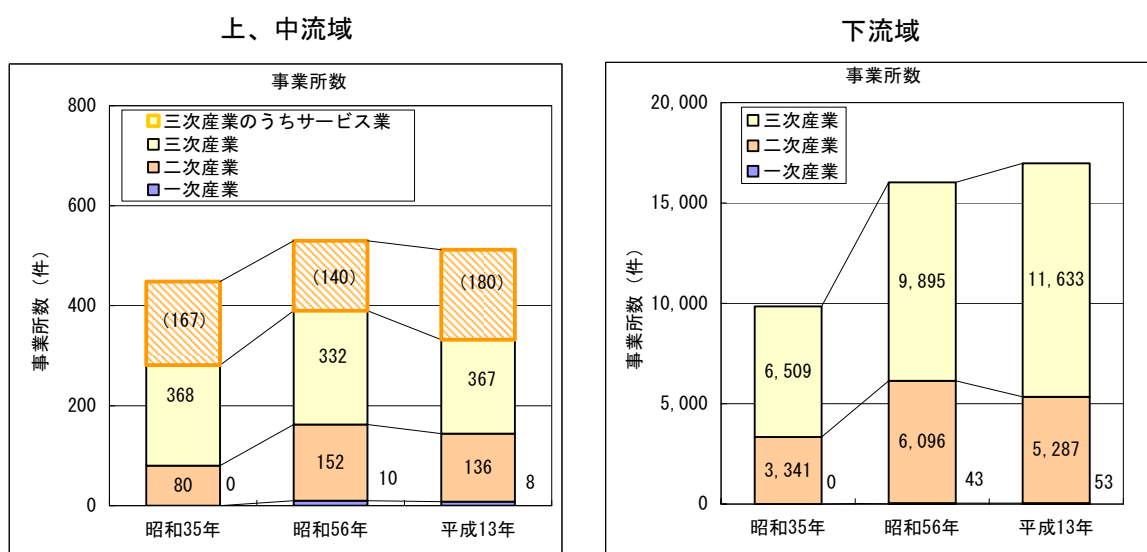


図 24 流域関係市町（上中、下流域別）産業事業所数

出典：石川県統計書

上、中流域：旧河内村、旧吉野谷村、旧鳥越村、旧尾口村、旧白峰村

下流域：旧松任市、旧美川町、旧鶴来町、旧根上町、旧寺井町、旧辰口町、小松市、野々市町、川北町

## 【交通】

手取川流域は、県都金沢市から約 25～50 km に位置し、下流域までは一般国道 8 号、北陸自動車道(美川 I.C.)によってアクセスが確保されており、上流域へのアクセス道路としては福井県勝山市へ抜ける一般国道 157 号がある。

また、白山市尾添と岐阜県白川村を結ぶ「白山スーパー林道」が昭和 52 年に開通し、広域観光ルートとして利用されており、白山麓の新緑や紅葉の季節には県内外の人々が多く訪れている。

鉄道については下流域を J R 北陸本線が横断し、中流域から金沢市への通勤、通学の交通手段として私鉄の北陸鉄道が金沢市野町<sup>のまち</sup>と白山市鶴来大国町を結んでいる。

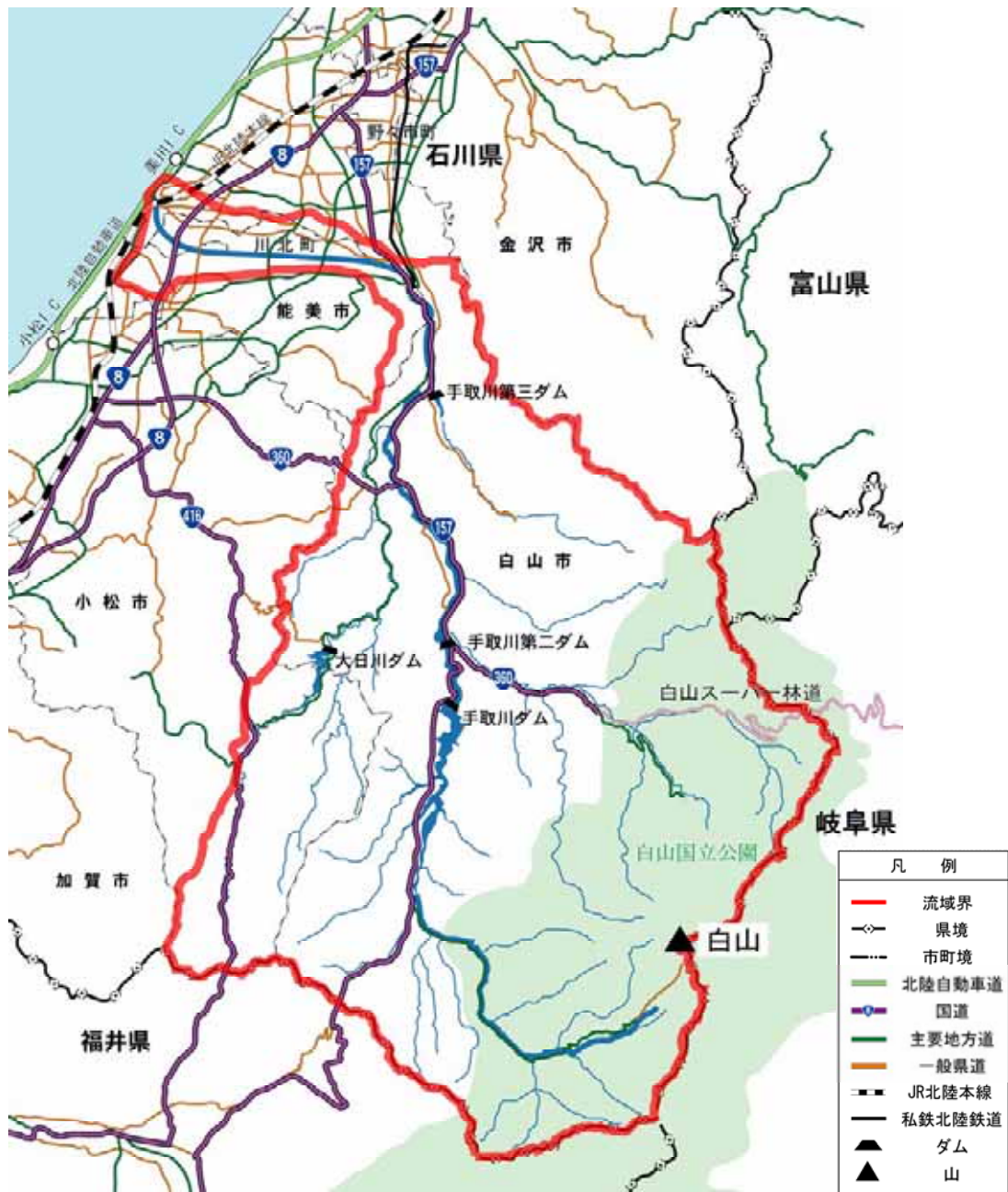


図 25 手取川流域の交通網